

# 2016 ジュニアサミット 開催提案書

次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～



平成27年9月17日  
三重県

(写)

雇経第36-2号  
平成27年9月17日

外務省国際文化交流審議官  
新美 潤 様

三重県雇用経済部  
伊勢志摩サミット推進局長

2016ジュニアサミットにかかる開催提案書について

日頃より、伊勢志摩サミット開催に向けた三重県での準備等にご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、ジュニアサミットにつきましては、8月5日、三重県知事から中山副大臣に本県での開催を要望させていただいたところです。今回、本県での開催日程案、三重県ならではの討議テーマ及び討議に資する視察先についてご提案申し上げます。

本提案をぜひ採用いただき、充実した視察を踏まえた実りある議論をしていただくとともに、集中討議の日程以外に、日本の原風景ともいえる美しい自然や、その自然との共生の中で生まれ、大切に受け継がれてきた豊かな伝統・文化など、日本の魅力そのものを体験・体感いただく機会を設けていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、本県での開催及び開催地が決定した際には、県内各地分散型の三重県ならではの体験・交流等について、改めてご提案申し上げたいと存じますので、本県での開催について格別のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

## 1 開催日程（案）

	午前	午後	夜
1日目		・三重県到着	
2日目	・ブリーフィングセッション	・開会式兼歓迎行事 ・開催地域周辺視察	※2
3日目	※1 討議に資する視察 (県内高校生等も参加)		※2
4日目	・集中討議		※2
5日目	・集中討議		※2
6日目	・集中討議		※2
7日目	※3 県内分散型体験・交流プラン (県内高校生等との交流)		・閉会式
8日目	・東京へ移動	・総理への成果文書提出	
9日目	・帰国		

- ・ ※1…討議に資する視察（県内高校生等も参加）  
2 討議テーマ及び討議に資する視察先（P2～P9）のとおりご提案  
します。
- ・ ※2…地元自治体による歓迎・交流行事、地域イベント等の視察、ローカル版  
クールジャパン（クール三重）の体験及び交流  
バーベキュー、お茶や将棋体験、忍者体験等  
詳細については開催地決定後、改めてご提案します。
- ・ ※3…県内分散型体験・交流プラン（県内高校生等との交流）  
詳細については、開催地決定後、改めてご提案します。

## 次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～

### (1) 世界の課題

2015年ドイツ・エルマウサミットにおいては、「気候変動とエネルギー」がテーマの一つとして議論されました。気候変動については、2015年12月にパリで開催される国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、2020年以降の温室効果ガス排出量削減に関する国際枠組みを決めることとなっており、伊勢志摩サミットが開催される2016年は、各国が取組の強化を、改めてスタートする重要な節目の年です。

気候変動をはじめ、天然資源の枯渇の懸念、生物多様性の損失等の環境問題は、人類の生存基盤に関わる極めて重要な問題となっています。従来の大量生産・消費型の経済社会活動から転換し、自然界から得る資源と、自然界に排出する廃棄物を自然環境が許容できる範囲内に抑え、循環共生型の持続可能な社会を構築することが求められています。この実現のためには、私たち一人ひとりが問題意識を持ち、行動につなげるための教育が必要です。

2014年11月、愛知県名古屋市において、日本と国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）の共催で、「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」が開催されました。会議では、日本が2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議（ヨハネスブルグ・サミット）」において、持続可能な開発のためには人材育成が重要と提唱し、2005年から開始された「持続可能な開発のための教育の10年（DESD）」の成果に係る評価が行われ、2015年以降のグローバル・アクション・プログラム等が採択されました。

この地球の健全で恵み豊かな環境を、世界規模から身近な地域まで保たれたまま次世代に継承すること、あわせて、持続的に成長・発展する経済社会を実現することが世界的な課題となっています。この課題の解決のためには、ESDの視点が重要となってきます。

## (2) ジュニアサミットの討議テーマ

世界の課題を踏まえ、ジュニアサミットにおいては、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会～」をテーマとし、環境保全と経済成長を両立し、気候変動やエネルギー問題を解決しながら、健全な環境を次世代に継承し、持続的な発展をする方策について討議いただくことをご提案します。

ジュニアの視点からの議論を通じて、環境と持続可能な社会について、世界中の人々の問題意識の醸成と行動につながることを期待しています。

三重県は、典型的な日本の地方でありながら、環境と持続可能な社会に関しては、「四日市公害の歴史や教訓」、「世界に誇る環境保全技術」、「中期経済成長率予測 No.1 (2013-25年)の製造業」、「地域資源を活用した再生可能エネルギー技術の導入」、「水と共生してきた人々の暮らし」、「森里川海の豊かな自然環境」、「世界遺産である熊野古道伊勢路」というように、世界に発信できる経験や技術の蓄積を有する強みを持っています。

三重県では、四日市公害の歴史や教訓を通して、大気汚染防止や水質汚濁防止等の環境保全技術が発達してきました。日本で唯一の組織として、公益財団法人国際環境技術移転センター (ICETT) を設置し、高度な環境保全技術を発展途上国等に移転することで、地球環境の保全に貢献しています。

また、三重県は、世界需要の4割を供給する「NAND型フラッシュメモリ」や「MRJ (三菱リージョナルジェット)」の部材の生産工場を有し、EV (電気自動車) や水素エネルギーに関する取組を行うなど、最先端技術の「ショールーム」となっており、「民間が公表した2025年までの都道府県別成長率予測」が全国1位となっています。

一方、三重県では、様々な企業が、豊かな自然資源を背景に、エコで画期的な技術に先進的に取り組んでいます。例えば、豊富な森林資源を活かした木質バイオマス発電、工場の排熱や余剰蒸気を再利用した新しい農業などが行われており、再生可能エネルギーを活用して、地域の基幹産業である農林水産業と商工業が連携し、環境に配慮しながら地域経済を活性化するという相乗効果が生まれています。

さらに、三重県は、戦後初の国立公園である「伊勢志摩国立公園」を有しており、今回、伊勢志摩サミットが開催される伊勢志摩地域は、このエリアに属し、リアス式海岸特有の複雑に入り組んだ美しい海岸線が広がり、大小の島々や山の緑など、素晴らしい自然環境が広がっています。この環境を生かし、世界各国の高校生が集い、地

学の実力を競う「第 10 回国際地学オリンピック」が、2016 年、日本で初めて三重県で開催されます。

加えて、その他の地域においても豊かな自然環境が広がっています。特に、北勢地域には、鈴鹿山脈の森林、集落の周りに田畑やため池や林等を有する里山、木曾三川をはじめとした川の流れ、伊勢湾の海と干潟の環境があり、ときには伊勢湾台風など多大な被害を受けながらも木曾三川の治水・利水の歴史を重ねて水と共生をしながら、様々な生き物が住む森里川海の豊かな自然環境の恩恵を受けて生活してきました。これらの自然資源を将来にわたって持続的に利用するため、地域の人々が主体となって、ハマグリ等の自然資源管理を行っています。

このように、三重県には世界の課題に通じる環境や産業があるため、これらを視察して、環境・産業技術の観点、自然との共生の観点、地域資源を活用した地域ビジネスの観点等を学んでいただき、環境と持続可能な社会のあり方を議論していただくことを提案いたします。

### (3) 討議に資する視察先

#### <環境・産業技術>

##### ① 四日市公害と環境未来館（四日市市）

四日市公害の発生に至る経緯や被害、環境改善に向けた取組等について、分かりやすく豊富な映像や写真などで展示しています。四日市公害の発生以来、市民・企業・行政が一体となって取り組んだ環境改善や、産業発展と環境保全を両立するまちづくりについて、また、現在の環境先進都市かつ最先端技術都市に至るまでの歴史を学び、未来志向で環境問題について学ぶことができます。



##### ② 公益財団法人国際環境技術移転センター（ICETT）（四日市市）

地球環境の保全と世界経済の健全な発展に寄与するため、我が国の環境保全システムを円滑に移転していく機関として、産・官・学の協力によって1990年に設立されました。これまで89ヶ国から約2,400名の研修生を受け入れています。我が国の大気汚染防止や水質汚濁防止等の環境保全技術の海外移転について学ぶことができます。



##### ③ (株) 東芝 四日市工場（四日市市）

四日市工場は、世界有数の規模を有する、最先端のフラッシュメモリの研究・開発・生産拠点です。様々なデジタルプロダクツに組み込まれるNAND型フラッシュメモリは、四日市工場から世界に送り出されています。また、人類が直面する地球環境問題にも正面から取り組む「環境負荷低減を積極的に推進してい



る工場」でもあります。最先端の技術と環境への取組を見ることで、環境との調和を図りながら技術を発展させることを学ぶことができます。

※NAND型フラッシュメモリとは、・・・1984年、東芝が開発した次世代を担う新しいタイプの半導体メモリ。世界に先駆けて実用化を果たし、各種メモリカードやSSD、クラウドサービスのデータサーバ、産業機器などの応用機器に採用され、消去や書き込みの速度が速く大容量化に適しているため、世界標準のデバイスとなっています。2015年、更なる大容量化・高速化を目指した3次元フラッシュメモリの量産を開始しました。

#### ④ (株)マーク・コーポレーション(鈴鹿オートリサイクルセンター) (鈴鹿市)

車の街 鈴鹿市において、「環境面で次世代に負荷を与えない社会」を実現するため、使用済み自動車の100%リユース、リサイクルを行っています。また、三菱マテリアル(株)、(株)ホンダトレーディングと協力し、使用済みハイブリッド自動車からの希少金属(レアアース磁石)の回収技術の開発に向けた取組をしています。リユース、リサイクルの行程を見学し、資源の有効活用や循環型社会システムについて学ぶことができます。



#### ⑤ 中部電力(株)川越火力発電所・川越電力館テラ46(川越町)

川越火力発電所は、燃料にLNG(液化天然ガス)を使用していますが、産出地で天然ガスを液化するときにはガス中のちり、硫黄分などの不純物を取り除いているため、ばいじんや硫黄酸化物が発生しません。1号機・2号機の発電方式は、大容量機では世界初めて主蒸気圧力31.0Mpa、蒸気温度566°Cの超々臨界圧二段再熱方式を採用し熱効率



46.4%を誇ります。3号機・4号機は、ガスタービン入口のガス温度を1,100°C級から1,300°C級に高くし、高温排気ガスを排熱回収ボイラで有効利用することにより、従来の発電方式に比べて高い、熱効率53.9%を誇ります。火力発電所や電力館を見学し、クリーンで効率的なエネルギー利用について学ぶことができます。



## <自然との共生>

### ⑥ 御在所岳（菰野町）

鈴鹿国定公園を代表する山（標高 1,212m）で、ロープウェイの支柱としては日本一の高さを誇る鉄塔を有する御在所ロープウェイが山頂に通じており、山頂周辺は園地となっています。大自然に包まれた一帯は、自然の宝庫となっており、そこに生育する貴重な動植物を観察することができます。また、山頂からは、北勢地域全域を見渡すことができ、森・里・川・海つながりと、都市や工場地帯の様子を一望することができます。



## <自然との共生 特に水との共生>

### ⑦ 赤須賀漁業協同組合（桑名市）

高度経済成長期に、埋め立て、地下水汲み上げによる地盤沈下等の影響で、多くの干潟が失われハマグリの水揚げが激減しました。そこで、漁業者が中心となって、稚貝の生産及び人口干潟への放流、漁獲規制等の資源管理に取り組み、ハマグリ等の漁獲量を復活させました。漁業者のお話を通じて、地域資源としてハマグリ等を持続的に利用するための生息環境管理と資源管理を学びます。



### ⑧ 輪中の郷（桑名市）

木曾・長良・揖斐の木曾三川が集まる輪中地帯は、過去、洪水の多発地帯でした。水の恩恵を受けながらも、洪水との闘いの歴史を重ね、自然と調和した街を築いてきました。洪水から集落や耕地を守るため、周囲を堤防で囲んだ輪中をテーマに、歴史・文化・産業を紹介している施設であり、水との共生について学びます。



## <地域資源を活用した地域ビジネス>

### ⑨ うれし野アグリ（株）（松阪市）

うれし野アグリ（株）は、工場の排熱・余剰蒸気を再利用する新しい生産技術、競争力強化・雇用創出等新しい地域貢献、野菜の流通に風穴をあける新しい消費を目指す、農家・地域・企業が手を結ぶ新しい農業の形です。地域山林の間伐材等の木質チップを利用したバイオマスボイラーを導入する企業（工場）の工場排熱・バイオマス蒸気を利用し、トマトを生産する国内最大級の植物工場を持ちます。農商工連携と地域資源を活かした再生可能エネルギーの利用による農商工連携ビジネスについて学びます。



### ⑩ JFE エンジニアリング（株）津製作所（津市）

津市は、政府が指定する「バイオマス産業都市」の22地域（2014年11月時点）の1つに選ばれています。JFE エンジニアリング（株）津製作所では、地域資源の未利用間伐材等の木質チップ等を燃焼して発電する建設中のバイオマス発電所を見学します。（2016年7月稼働予定 一般家庭約45,000世帯の年間電力使用量に相当する電力を発電予定）



## 〈位置図〉



